

本を開く。自分が動き出す。

令和8年度埼玉県推奨図書



高校生・青年向け

■埼玉県では、青少年のみなさんに
読んでほしい図書を薦めています■

コズミック・ガール 宙わたる教室



伊与原新/著
文藝春秋

伝説の定時制高校科学部がでんぷん燃料でペットボトル・ハイブリットロケットを打ち上げるプロジェクトに挑戦する。失敗に涙する苦悩の日々、応援してくれた人たちへの感謝。それぞれの思いを胸に、ロケット発射へのカウントダウンが今、始まる。

そして少女は加速する



宮田珠己/著
幻冬舎

4人の走者でバトンをつなぐ、4×100mリレー。100分の1秒をかけた戦いに、少女たちが挑む。努力と才能、栄光と挫折、期待と焦燥。それぞれの思いを胸に、一心不乱にトラックを駆ける。スポーツの喜びも厳しさも、全部がつまった青春陸上小説。

世界をカエル 10代からの羅針盤 大学4年間で「応援」に捧げた 私が古生物学者になった話



泉賢太郎/著
死後くん/絵
理論社

「好き」の熱量だけでは決まらない。大学の応援部で培った「ガムシャラ」を武器に進む研究者の道。「チバニアン」の共同研究者でもある著者は、いかにして古生物学者になったのか。読めば必ず、あの頃好きだった何かをもう一度学びたくなる一冊。

わたしのbe 書きたび、生まれる



佐藤いつ子/著
KADOKAWA

ルッキズムに翻弄されながらも、書道を通して高校生3人が自分と向き合い成長していく物語。爽やかで読後感も良く、読書が苦手な子にもおすすめできる一冊。恋に友情に書道(部活)にと思ひ悩む気持ちに、きっと共感できるはず。

見えなくても王手



佐川光晴/著
実業之日本社

「どの駒をどのマスに動かすか言ってもらえば、晴眼者と同じルールのもと対等に勝負ができる」将棋。その将棋を学び始めた全寮制の盲学校に通う児童生徒の成長と真剣勝負への憧れ、彼らを取り巻く家族や教員たちを描いた、暖かな気持ちになる物語。

盲学校に通う小学4年生の正彦は、新任教師から将棋を教わったことで、その魅力に没頭していく。専用の将棋盤と駒で対局を重ね、勝負の楽しさと人とのつながりを知る少年と、彼を支える人々を描いた温かな成長物語。

埼玉県立春日部高等学校
2年生



埼玉県マスコット
「コバトン」

問合せ先：埼玉県 県民生活部 青少年課

✉ a2905-01@pref.saitama.lg.jp

☎ 048-830-2907

図書一覧はこちら

